

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 ローマの信徒への手紙 15:1～6

2022年11月30日(水)

◆文脈と言葉

- ユダヤ人、異邦人にかかわらず別け隔てなく与えられる神の憐れみにより、自らを誇る律法の行いではなく、イエス・キリストへの信仰によってのみ与えられる救いに招き入れられた信仰者の生きるべき道を第12章からパウロは語ります。
- 信仰者の生き方は、神の御前に義とされて和解していただき、神との正しい関係に入れられたことに根ざして、隣人とも正しい、神が求める人としてあるべき関係をつくるように促されます。
- 神に仕えるために賜物を用いて奉仕に励み(12:1-8)、隣人を尊重して前をおこないます(12:9-21)。神に世の秩序を守るようにと定められた為政者を尊重します(13:1-8)。隣人を愛することで律法(十戒)をまっとうします(13:8-10)。救いの完成におけて、欲におぼれ、争いねたみから離れてイエス・キリストを身にまとった品位のある歩みをします(13:11-14)。各自自分の信仰を確かにし、その上で、信仰の弱い人をつまづかせないように配慮して生活します(14:1-6)。キリストが自分ためだけでなく人のために死なれたように、わたしたちも隣人にささげて歩みます(14:8-12)。互いにさばき遭わず、また人を罪に誘わないように配慮をもって平和をうちたてます(14:13-23)。
- 3節の引用：詩編 69:10。

◆黙想のすじみち

(1) あらすじと説き明かし

- ここで改めて隣人特に弱い人への配慮がイエス・キリストの憐れみに基づくことが語られます。キリスト者の主による一致はこのような信仰者の生き方にかかっているのです。
- 神の子である主イエスは強い方であられたのに、弱くなってくださいました。このキリストの道は強い者が弱い者たちに向かう際に歩むべき道でもあります。信仰において持つ正しい自由の用い方、と言ってもいいでしょう。この自由は、弱い者の利益のために自分の利益を制限するのです。
- 詩編 69 編は主イエスが、わたしたちが受けるべきであった苦しみを負ってくださったことを語ります。聖書がキリスト者の歩むべき道と希望を語っているというパウロの確信があらわれています。聖書において聖霊の力が働いているということです(13節)。
- 自分や人が強い時も弱い時も、信仰によって一つに結ばれているのは、キリストの忍耐と慰めに信仰者が生きることによって教会が作られているからで

す。

(2)登場人物(人・神)：人間は何を考え何をしたか、どのように描かれているでしょうか。神はどのように登場人物を見、関わっておられるでしょうか。

主イエス：

パウロ：

強い人：

弱い人：

(3)内容・意味：この箇所で語られていることの意味は何だと思えますか。神(父・子・聖霊)は何をなさり、何とおっしゃっているでしょうか。

(4)自分にとって

この聖書箇所は、自分に対してはどのように語りかけていると思えますか。

(5)語られる恵み。

この箇所から自分に語られた恵みは何だと思えますか。

(6)恵みに応える私たちの生き方・生活

恵みを受けた者としてどのようなお応えのしかたがあるでしょうか。